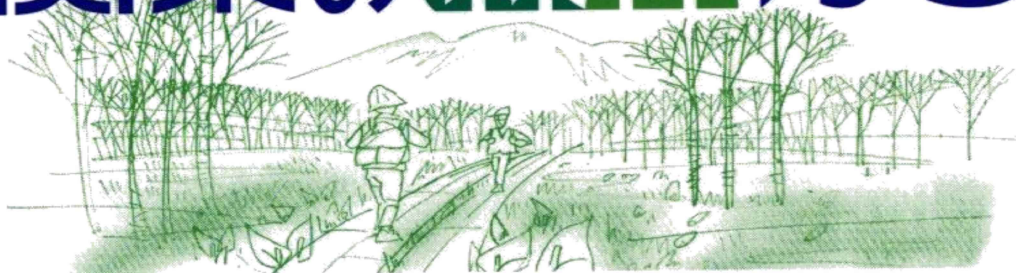


関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



「行司ヶ滝(ふくしまの水三十選)」(福島県田村市)

(撮影：関東森林管理局 森林放射性物質汚染対策センター)

- ◎ 令和2年度重点取組事項について 企画調整課 2
- ◎ 森づくり最前線
東京神奈川森林管理署 高尾森林事務所 森林官 小林 智 崇 4
- ◎ 林業試験地から(高尾山のカツラ) 森林技術・支援センター 5
- ◎ 新型コロナウイルス対策 6

令和2年度重点取組事項について

企画調整課

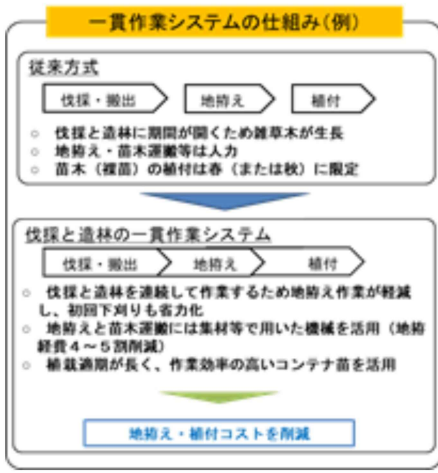
関東森林管理局では、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、

林業の成長産業化や「意欲と能力のある林業経営者」の育成等に貢献するため、林業の生産性向上、市町村等への技術支援、シカ被害対策、東日本大震災や台風災害等からの復旧・復興に取り組みます。

林業の生産性向上に向けた取組

【一貫作業システムの推進】

高性能林業機械とコンテナ苗を活用して伐採から造林までの作業を連



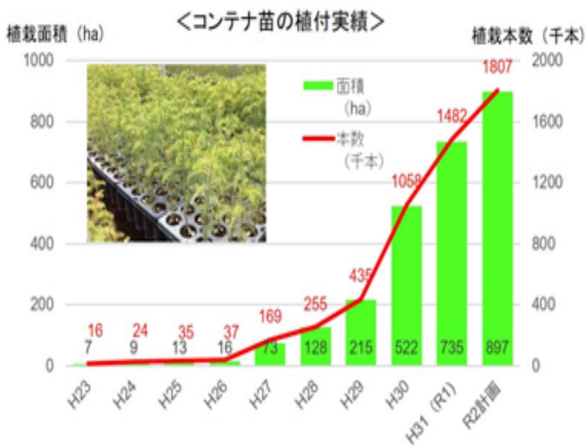
続して行う「一貫作業システム」を管内全域で推進します。

【コンテナ苗への転換】

従来の裸苗と比べて植栽作業の効率化が図られ、かつ、植栽可能な期間が長いコンテナ苗への転換を推進します。

・植栽本数に占めるコンテナ苗の割合

R元年度 64%
R2年度 81%



【新技術の実用化に向けた試行・検証】

無人航空機(ドローン)やICT機器を活用した現場業務の効率化、成長に優れた苗木等の新技術を積極的に導入し、「林業イノベーション」の実現に貢献します。



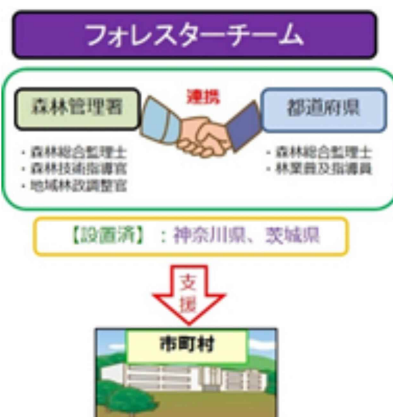
無人航空機による薬剤散布試験 (つる切り作業を省力化)

森林経営管理制度等の定着に向けた市町村等への技術支援

【森林総合監理士(フォレスター)の育成・連携】

平成31年4月からスタートした森林経営管理制度等の市町村の新たな業務を支援するため、フォレスターチーム等による民国の森林総合監理

士等が連携した市町村への技術的支援を推進するとともに、各地域のフォレスターチームの結成を促進します。



【現地検討会等による技術の普及】 国有林で実施している林業の生産性向上に向けた取組について、引き続き現地検討会等を通じ、民有林関係者にも広く普及します。



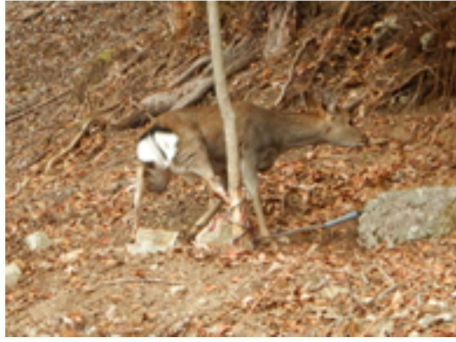
生産性向上の現地検討会

【民有林と連携した森林整備・木材供給】
民有林と国有林との連携による、効率的な路網整備や木材の協調出荷を通じ、地域林業の活性化に貢献します。

シカ被害の未然防止の取組

【捕獲事業の拡大・効率化】

くくりわなや猟銃による捕獲事業の実施区域を拡大するとともに、ICTを活用した効率的な捕獲にも取り組めます。



くくりわなで捕獲したシカ

【生息区域の早期把握】

ニホンジカの生息が少ない地域の森林被害を未然に防止するため、センサーカメラによる生息状況の早期

把握のほか、関係機関と連携し捕獲も視野に入れながら、生息地拡大防止に向けた検討を進めます。

【防護対策の低コスト化】

資材や構造を工夫した低コストなシカ柵、立木を支柱として活用したシカ防護対策を実施するとともに、伐採で発生した枝条(木の枝)を堤状に積みシカの侵入を防ぐ方法など、更なる低コスト化について実証します。



シカ柵における立木の支柱利用

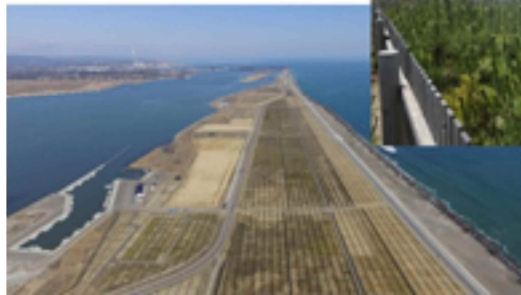
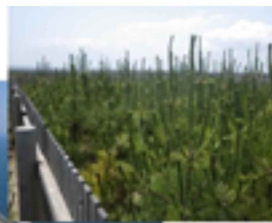


従来のシカ柵の代わりに枝条積みを行い、植栽木を保護する取組

東日本大震災、台風災害等からの復旧・復興に向けた取組

【海岸防災林の復旧・再生】

東日本大震災により被災した福島県相馬市の松川浦海岸防災林の植栽を完了します。



復旧の状況
(植栽後5年経過したクロマツと防風柵)

【森林・林業の再生に向けた総合的な取組】

住民が安心して帰還できる環境づくりや、原発事故の影響で希薄になった住民と森林の関わりの再生を目的に、関係機関が連携して実施してきた「里山再生モデル事業」について、

「里山再生事業」として対象地域を拡大して実施します。

【台風災害への対応】

令和元年台風第15号、第19号で被災した林地・林道について、治山事業等により復旧します。また、台風等による山地災害発生時には、ヘリコプター調査やドローンによる調査を迅速に行います。



ドローンによる森林の被害調査
(台風第15号)



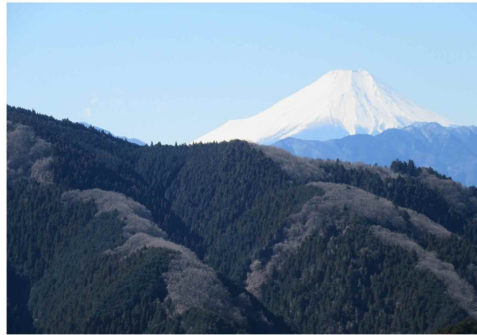
ヘリコプターによる森林の被害調査
(台風第19号)

森づくり最前線

東京神奈川森林管理署

高尾森林事務所
森林官 小林 智崇

高尾山縦走路の
小仏城山からの東京都心



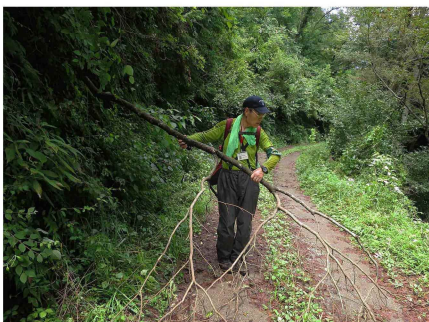
高尾山富士見台からの富士山

私が勤務する高尾森林事務所は、東京都八王子市に位置し、ミシユラン三つ星の高尾山を含む国有林約1,200haを管轄しています。
管内国有林はスギ・ヒノキを主とする人工林が約8割となっており、高尾山とその周辺はほぼ全域が明治の森高尾国定公園、都立高尾陣馬自然公園に指定さ

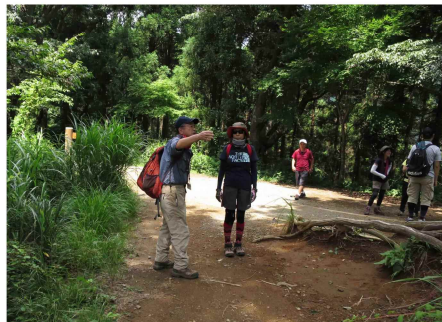


高尾山頂の登山者

れ、多くの貴重な動植物の生育・生息地ともなっています。
高尾山の年間登山者数は約260万人を超え、富士山やエベレストを遙かに超えて「世界一登山客の多い山」と言われ、高尾地区では平日でも多くの利用者が登山や観光に訪れます。
また、関東森林管理局では高尾山を含む448haの国有林を高尾山自然休養林（「日本美しの森 お薦め国有林」の一つ）として管理しており、家族連れなどが森林浴や植物観察などの森林レクリエーションを楽しんでいる姿も多く見られます。
一方、登山道での登山者向けの注意喚起看板等の設置や生態系保全の呼びかけなど、国有林を管理していく上で、一般の登山者にわかりやすく伝えることの難しさを感じています。
登山者が多い土日祝日には、



枯枝を除去する森林保護員



登山者に説明する森林保護員

当署の非常勤職員であるグリーン・サポート・スタッフによる巡視を月数回実施しており、登山者に向けたマナー向上の普及や歩道・危険木の点検など国有林の管理に努めています。
昨年は10月に令和元年東日本台風（台風19号）の大雨により多くの被害が発生しました。当事務所の管内では特に林道

の被害が大きく、沢からの土砂流出、林道路肩の崩落など全11路線で発生しました。中には、沢の水に浸食され跡形もなく沢となっている林道もあり、現在も通行できないところもあります。
また、現在は、新型コロナウイルスの影響により、高尾山周辺施設も例年どおりの活気はなく寂しく感じるので、早く元の活気のある高尾山に戻ってほしいと願っています。
当事務所は、観光資源である高尾山を有しており、地域の関係団体や自治体、地域住民などからの問い合わせも多く頭を悩ませます面もありますが、色々な声や意見を聞き地域にあった森林施業・管理を行い、より良い森づくりを行っていきます。



台風19号災害（板当林道）

林業試験地から (高尾山のカツラ)

森林技術・支援センター

令和2年度の試験地紹介は、東京都の高尾山(599m)の山頂下(標高560m・大正14年植栽の樹齢95年生)と山裾(標高240m・昭和3年植栽の樹齢92年生)のカツラ(写真1)の試験地を紹介します。



写真1

カツラ(カツラ科カツラ属の落葉高木)の木は、全国の冷温帯に多く分布し、単木では、樹齢千年を超えるものや幹周りが20mに近いなど、国等の天然

記念物や自治体のシンボルとなる樹木として指定がなされており知名度が高く聞き慣れた樹名と言えるのではないのでしょうか。また、木材を利用する場合に、木目が細かく加工しやすい特徴があることから、基盤や彫刻・家具などの装飾材として利用されています。さらには、公園や街路樹などの景観木として馴染みがあり、春には紅色の芽吹き(写真2)、秋には、ハ



写真2

ト型の葉が黄色に紅葉し、四季毎に景観を楽しませてくれます。二つの試験地の施業履歴は、山頂下プロット0.13haに、クヌギ・コナラとの混植記録と昭和43年の間伐履歴は確認できるとは判っていません。また、現況のカツラの樹冠下には、植栽したコナラ属に代わって、縦木(モミ)が侵入した林相(写真3)となつています。



写真3

一方、山裾プロット0.17haに入り2回の間伐の実施記録が残されています。プロット間の立地条件で成長量を比較してみると、良好な生長が期待できる溪畔周辺が優位と考えられるものの、山頂下と山裾の平均胸高直径の成長差は、共に平均樹高25mで、標高差での著しい差がないことが判つてき

ました。また、樹高が30mを超え下枝が高く通直な形質の個体(写真4)は、斜面の凹地に生育していることから、カツラにとつて微小な地形が成長に優位な条件因子となります。



写真4

このほか高尾山国有林には、狭小や若齢の林分6ヶ所も現存しています。カツラの幼樹(次ページ写真5)を人の手により植栽し、90年を超える高齢級人工林として成林していることが希少であり生長を見守り続けていく必要があります。今回の芽吹き写真は、3月下旬に撮影したもので、高尾山の登山と併せて山頂下プロットをご覧になる場合には、3号路歩道沿いに木製看板「かつら解説版(東京都自然研究路案内板)」が、目印になります。山頂から下る2つのルートが有りますが、どちらとも15分が目安になります。



写真5

現在は、人と人との接触を回避する必要がありまますので、新型コロナウイルスの終息後に訪れるようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス対策では、多くの方々が大変ご苦労されていますが、関東森林管理局でもできる限りの対応に努めています。

林業、木材産業等への影響を幅広く情報収集し、有識者の意見を聴きながら、国有林材の需給調整を検討していきます。スキー場などのレクリエーション施設への深刻な影響がある中で、年度当初に一括納入が原則の土地の貸付料については、積極的に分割払いのご相談に応じています。

また、各種工事への影響を丁寧に聞き取りながら、工期延長など柔軟に対応することとしています。

職場においても、感染の終息を目指して少しでも感染リスクを減らすため、在宅勤務やウェブ会議をできる限り導入し、人の接触を減らしながら業務を継続する工夫を行っています。

4月末現在では、未だ終息の見通しは立っていませんが、皆さんと共に、全力で取り組んでいきたいと思えます。

今月の表紙

行司ヶ滝

（ふくしまの水三十選）

福島県田村市都路地区にある「行司ヶ滝」は「ふくしまの水三十選」に選ばれているなど、美しい滝として知られています。

また、滝に至る遊歩道は、大正時代の森林鉄道として利用されてきたものであり、現在も森林鉄道時代の面影を残しています。

歩道の入り口付近には、当時の遊歩道入り口付近に設置されています。

森林放射線物質汚染対策センターでは、遊歩道の協力の杉林に、林業再生のための実証事業による間伐や風倒木の整理などの整備を行い、滝を訪れる人々の安全と景観に配慮した林分を作り上げました。

